フランソワ・ド・サールのシンプルに生きる霊性

KOIZUMI T

目次

フランソワ・ド・サールのシンプルに生きる霊性　．．．．．．．．．．．．．．．．．　1

目次

フランソワ• ド• サールのシンプルに生きる霊性

愛の博士 フランソワ• ド• サール (1567-1622 年) 著作信仰生活の入門の短いまとめ　シンプルに生きる霊性について

フランソワ• ド• サール François de Sales (日本ではフランシスコ• サレジオの名前で知られていますが、ここではフランス語読み) は、1567 年旧サヴォイア公国 (現在フランス) のサール城で生まれました。その当時、カトリックとプロテスタントの間に起こった不和の状態が続いていました。フランスのパリで聖アウグスティヌスと聖トマス• アクィナスの神学を研究しました。また、救いの問題 (私は選ばれた者なのか、呪われて地獄に堕とされる者なのか) に悩み、絶望の淵へと追い込まれました。パリの黒い聖母信仰のあるサン=エティエンヌ=ドゥ=グレ教会の聖母像に膝まずき、すがって祈り、救われました。フランソワの父は息子が法律家の道を歩む様に願いましたが、本人は聖職者の道を歩む決心をして、貞潔と祈りの生活を送りました。1594 年、宣教の為にプロテスタント• カルヴァン派が多いシャブレー (かってサヴォイア公国に存在した、現在のフランスとスイスの国境周辺レマン湖南岸に位地している) に滞在し、4 年間あらゆる危険に見舞われました。(狼からの攻撃、刺客から逃げる為に木の上で一夜を過ごした体験等) また、数多くの霊的指導に関わる著作を残しました。1610 年に、女子修道会の聖母訪問会を設立。1622 年にフランス• リヨンで 55 歳で亡くなり、アヌシーに葬られました。1655 年に愛の博士として列聖されました。愛の博士と呼ばれたフランソワ• ド• サールの生きた時代の重要なスピリチュアル運動: ユマニズム• デボ (L’humanisme dévot 敬虔なヒューマニズム運動 1580 年から 1660 年) は、ジャンセニズム (オランダの司教コリネウス• ヤンセン Cornelius Jansen より推奨され、厳格な神の絶対性、道徳と人間の堕落性を説くカトリック• スピリチュアリティーの一派で、パリではポール• ロワイヤル修道院が運動の中心地となりました) 厳格化以前のフランス• カトリック寛容的スピリチュアリズムです。キリスト教信仰と人間への信頼を調和させて、人間の内面的な精神生活を高める事で、神との信仰に繋がる愛と優しさをテーマにして、すべての人々の休済を求めました。この愛を求めるスピリチュアリティーは、純粋な愛 Le Pur Amour という用語で表現されて、このユマニズム• デボにおいての神秘主義体験は、神との結合、愛そのものとされます。

この神愛を求める為に、敬虔さ、美徳、観想という実践がされました。また、フランソワ• ド• サールの説く聖性は、聖職者という限られた人々の為のものでは無く、すべての人々に与えられ、また、シンプルに生きる事の霊性は、その生き方や教えの中心に、平和と優しさがあります。人は厳しさよりも、愛と慈悲によって多くの事を成し遂げられると説きました。

信仰生活の入門は、1609 年、41 歳の時に出版され、自分のいとこの妻ルイーズ• デュ• シャテル夫人に書簡を通して霊的指導をしていた折の霊的書簡が文書として出版されたものです。一般の信徒達が日常生活の中で神を愛し、信仰生活を送る為の手引きが、フランス語で優しく簡潔に書かれています。
フランソワ• ド• サールの霊性指導は、以下の様にまとめられます。

1 人間に好かれるよりも、神に好かれなさい

2 すべては愛より為されて、強制されるものではありません

3 内側から外側へと向かう事

4 穏やかに振る舞う事

5 今日の事しか考えてはならない

6 すべての機会を楽しみなさい

7 穏やかに生きなさい

8 喜んで生きなさい

9 自由に生きなさい

ここでは、信仰生活の入門 Introduction à la vie dévote の著作の引用を使用したいと思います。特に、蜂と蜜蜂の例え、聖香油の例え、無理してはいけない事、怒らない事について、引用を通して、個人的に短くまとめてみました。
引用及び参照に用いた外国語の参考文献は私自身の翻訳で、以下に参考文献を記します。

Saint François de Sales
Introduction à la vie dévote
Les éditions du Cerf, 2019
(以下、IVD)

1 蜂と蜜蜂の例え
フランソワ• ド• サールはその優しい霊性指導の中で、蜂蜜• 香水の例えを多く使っています。蜜や香料は甘さの象徴であり、聖香油はキリストの受難、死と復活の象徴でもあります。蜂は刺されると痛く、致命傷になるという事で、信仰における慎重さと苦しみを、また、蜜蜂は蜜をつくるにあたって、甲斐甲斐しく働き、甘い蜜をもたらす存在

として紹介されています。蜜蜂が苦味のあるタイムに群がり、一時的に苦味を味わっても、やがて甘い蜜と変わる様に、キリスト教徒も日常生活において、たくさんの苦々しさを体験するけれども、火• 車輪• 剣といった苦しみの象徴は、いつしか香しい香水となります。
(IVD 18 より)

蜜の中に入れられたすべての輝石は、もっと輝く様になります。
(IVD 20 より)

蜘蛛は働いている蜜蜂を殺さないが、蜘蛛が蜂の巣に近づいて光線の隙間に糸をはる時、蜘蛛は蜂の仕事を邪魔して、その蓄えられた蜂蜜は台無しになります。この様に、私達の罪は魂を殺しはしませんが、スピリチュアル• ライフを台無しにします。すべては何事も行き過ぎ、過剰になってはいけません。
(IVD 71 より)

マルハナバチ、蜜蜂の女王は人が群れている野原には飛び交いません。人気を避けて、静な場所を求めます。
(IVD 156 より)

蜜蜂の刺され傷は、蠅による刺され傷よりも強く、痛いけれど、頻繁に刺される事が多いものです。
(IVD 169 より)

蜜蜂達の小さな口は蜜しか吸わず、その蜜は神より満たされます。
(IVD 290 より)

小さな蜜蜂がまだ幼虫であった時、山脈、丘、花々を飛びまわる事が出来なかったけれど、少しずつ、母蜂のつくってくれた蜜で養われ、この幼虫は羽を持ち、鍛えあげられて、ある日、野原を飛びまわれる様になります。私達は未だこの幼い蜜蜂の様で、キリスト教の完全な信仰を持っていませんが、神に祈りましょう。
私達がこの地上においてただ飛べる様になるだけでは無く、永遠の中で、休息を得られる様に、鳩の様な翼を私達に授けてください。
(IVD 380 より)

2 聖香油の例え
キリストの好む 2 つの美徳として、柔和さと謙虚さを、聖香油の材料となるオリーブ• オイルと香料バルサムに例えています。オリーブ• オイルは ki 柔和そのものであり、香料バルサムは謙虚さそのものを表現しています。聖香油は、オリーブ• オイルと香料バルサムが混じったものでこの 2 つの物質はキリストが好意を持った美徳です。この聖香油は、常に瓶の底へと流れてゆく謙虚さの象徴です。

(IVD 199-200 より)

3 無理してはいけない事
ダチョウは飛ぶ事は無く、ニワトリは重々しく飛び、鷹• 鳩• 燕はスピードを持って高々と飛びます。罪人は天上へと飛びませんが、地上を走ります。いまだ真の敬虔を知らない善き人々は、天上へとゆっくりと向かって行きます。
(IVD 15 より)

混乱に掻き立てられずに、乱されてはなりません。少しでも、心に憂いを覚えた時は神様に委ねなさい。
穏やかに、あなたの欲望をなだめて、理性的に行動しなさい。
(IVD 413 より)

4 怒らない事
私達の人生の道でいらいらしてはなりません。平和の中に歩んでゆきなさい。怒りにまかせる事の無い様に。
(IVD 200 より)

意志の力によって怒りをコントロール出来ると考えるよりも、まったく怒らないで生きた方が良いです。何故なら、私達は弱く、不完全なので、怒りに驚かされる事があっても、直ぐにその怒りを追いだした方が良い。怒りは直ぐに主人面をして、心を占領してしまうけれど、最初の怒りを覚えた時は、静に、断固たる態度で対応しなくてはなりません。
(IVD 202 より)

もしも怒りに駆られた時は、すぐに親切な行為を為しなさい。
(IVD 203 より)

怒り無く、平和に、親切、善意、柔和さを持って対応しなくてはなりません。
(IVD 204 より)

この様に、フランソワ• ド• サールにとってシンプルに生きる事は、荒々しい感情に取られる事無く、柔和さを重要視している様に思います。
最後に、フランソワ• ド• サールの柔和さの祈りで終わりたいと思います。

柔和さの祈り　フランソワ• ド• サール
主よ、あなたの助けによって日々の出会いや挫折の中で、優しさを実践したいのです。怒りが心に湧き上がって来たら、力強くでは無く、優しく力を振り絞って、心を平安に戻そうと努めます。自分一人では何も出来無い事を知っているので、使徒達が荒れ狂う海に翻弄された時の様に、あなたに助けを求めます。私を傷つけたり、反対したりする人

にも、そして自分自身にも、優しく接する事を教えてください。自分の過ちを責めない様に。努力しても倒れてしまった時は、優しく立ち上がり、さぁ、私の哀れな心よ、再び立ち上がり、この溝から永遠に抜け出そうと言いましょう。神の慈悲に頼りましょう。そして、私達を助けてくださるでしょう。

2026 年 10 月 7 日　フランス• アンジェ　平和 祈

フランソワ・ド・サールのシンプルに生きる霊性

著　者　　小泉友美 Koizumi Tomomi

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社